

～ ふるさととつながり、仲間とともに“在りたい未来”を創造する建屋っ子の育成 ～

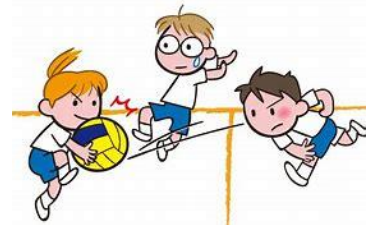
# 建小 NEWS

養父市立建屋小学校 学校だより  
令和6年9月30日 No.14



## 遊びを通して、「思いやりの心」「豊かな感性」の育成を

校庭から、子ども達の遊び声が聞こえてきます。様子を眺めていると、1年生が輪になって相談を始め、すぐにドッジボールが始まりました。思った方向にボールが飛ばず、転がったボールを慌てて拾いに行く子、自分が拾ったボールを他の友達に譲ってあげる子、手をたたいて応援する子、みんな本当に楽しそうです。



子ども達は「遊び」を通して、順番やルールを守ること、譲り合うこと、みんなに合わせること、負けた悔しさに折り合いをつけることなどを学んでいきます。低学年のうちには、勝負に負けた子どもがすねたり、腹を立てたり、といった光景がよく見られます。また遊びの途中で勝手にルールを変更したり、順番を守らなかったり、といった光景も見られます。しかし、問題が起きるたびに話し合ったり、上級生や大人が仲裁したりすることで徐々に正しい判断・行動ができるようになり、成長していきます。



ただ最近、子ども達の遊びを見ていて気になることがあります。遊びの中のトラブルが、児童間の「暴力」や「いじめ」に発展するケースがあることです。特定の子とばかり遊んで他の子を仲間に入れないとか、言い合いからケンカになるといったトラブルは以前からありましたが、「ウイルス(菌)おにごっこ」といった遊びを考え、楽しむ子ども達がいることに驚かされます。

また、テレビやゲームの影響でしょうか、「攻撃的な言葉＝チクチク言葉」を、遊びながら友達に向ける姿も気になります。どちらの問題も、「今の自分の言動を相手がどう思うか。自分が相手の立場だったらどう感じるか。」という、相手を慮る心＝思いやりの心が十分に育っていないケースです。

この夏、パースのダルキース小学校を訪問した際、現地の子供達も学校の遊具やサッカーと一緒に遊んでくれました。英語がわからず戸惑う建屋小の子供達を気遣うように、ボールを優先的に回してくれたり、遊具の使い方を教えてくれたりしました。それが嫌々やっているのではなく、ごく自然な振る舞い(奉仕の態度)であったのが印象的でした。

「遊び」とは、「自分が楽しければ良い」「自分さえ勝てば良い」という自己中心的なものではなく、「遊んでいるみんなが楽しい」ものであるべきだと考えます。全校生が、学年や性別を問わず仲良く交流できるのが「たきのやっ子」の良い所。この長所を更に伸ばすべく、心通い合う「楽しい遊び」について、子ども達と一緒に考えていきたいと思えます。

.....

■参考：学校における「いじめの捉え方＝定義」が、昔とは大きく変わりました。



「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。」

「いじめ防止対策推進法」



# パワー全開で雨を吹き飛ばせ！「2024 秋季大運動会」



今年の秋季大運動会は、午前も午後も雨に悩まされました。当初計画していた22日（日）は雨のため順延。翌23日（月）もプログラム中盤から予想外の雨となり、何度も演技を中断しながらの実施となりました。熱中症対策のため8時45分開会とし、休憩を何度も挟みながら実施する予定でしたが、実際は雨が降っては止み、降っては止みの繰り返しで、空模様を見ながらの運動会となりました。

ただ、空模様とは対照的に子ども達の「運動会を成功させたい」という思いは熱く、最後の演技である表現では、全校生48名の気合いの入ったダンスを見ることができました。ダンスが得意な子も得意でない子もいる中、また1～6年生まで発達年齢の違いがある中、心を一つによく最後まで頑張り通してくれたと思います。心から拍手を送ります。

午後の地区運動会は、開会式とラジオ体操、綱引きが終わるやいなや大雨で、残念ながら途中中止となりました。地区体育委員の皆様をはじめ関係者の皆様が入念に準備を重ねてこられただけに苦渋の決断であったことと拝察します。心残りの気持ちは来年度に繰り越し、「2025 秋季大運動会」を学校・家庭・地域そろって盛大に開催できたらと考えています。

## □■ お寄せいただいたアンケートの概要 ■□

- 猛暑の中の練習、雨の中の本番、子ども達が頑張っていた姿に感動したこと。
- ダンスの隊形や工夫。子ども達が考えた表現がダンスに取り入れられていたこと。
- 小学校の運動会と区民運動会を分けたことで気ぜわしくなく落ち着いて観覧できた。
- 久しぶりにお弁当と一緒に食べられた。良い機会であった。今後も継続を。
- 子ども達のパフォーマンスの質の高さ。協力する姿勢。
- △コミスクであることを考えると、地域との混合型のプログラムが望ましいのでは。
- ※演技種目・プログラムについての要望。
- ※子ども達の応援歌が良かった。紅白の応援合戦につなげてはどうか。



## 「仲間と一緒に頑張れた！」 6年生7名の活躍光る！

※学校のホームページでも写真を紹介中!!



■スローガンを貼る中島さん、松田さん ■一輪車を必死に押す川上さん ■リレーで全力疾走の富田さん



■「ラジオ体操」を指揮する武内さん ■全カダンスをする森山さん ■優勝旗を手にする田中さん